書く人でさへ誠に深い眞情を吐露してゐるのもある。殊に朽葉氏の嚴君の回想などに至つては人の腸を斷つものがある。そして理解ある父君の溫情が人に迫る。又色々の人が色々の見方を以て書いてゐるので（二氏の本質的永劫的なる本性に就てはいづれの人も深刻に書き盡してゐないのは殘念ではあるが）浮世の人とその二氏の面影を思ひ浮べるには恰好のよすがとなる。殊に田代氏の筆などには短い句の中に朽葉氏の面目を躍如たらしむるものがある。筆者の名を擧げれば朽葉氏の父君道臣氏、白楊氏の妹壻山下市助氏を始めとして相馬御風、松居松葉、荒木郁、長谷川時雨、三上於菟吉、福士幸次郎、增田篤夫、坪内雄藏、谷崎精二、廣津和郎、秋田雨雀其他の數氏がある。二氏の恩はぬ死に對して色々の感に打たれた人は私一人ではあるまい。殊に詩のまじめなる愛好者の中には其感の深い人が多い事であらう。さう云ふ人は是非一度は此書を繙かれん事を希望する。そして優れた人の天析をもう一度惜しんで、神や來世を信ずるにせよ信ぜぬにせよ、彼等の靈の冥福を心から祈つてほしいと思ふ。此書は非賣品ではあるが發行所に其旨を通ずれば其分配に與れ跡事は恐らくあるまい。もしそれに與れなければ其便宜を他の人にも與へうる樣故人の爲に發行者に切におすゝめする。發行所東京市牛込區津久戸町三十一番地三富今井追悼錄事務所。（岡本春彦）

佛教美術概論

小野玄妙著

日本美術史研究が、今日に至りも、ほ未だ極めて不備、不徹底にして、殆ど一の推奬に足るものあるを見聞せざる所以は、一は其學者自ら『美術史』の意義を自覺せず、美術史の研究、美術品の研究、美術家の研究、及び其他の美術史的文獻研究の意味の區別と關係に對する嚴肅なる美學上の考察、知見無く、唯だ〳〵漫然として之れに從事するもの多きに本づくに似たるも、一は又、諸般の美術史的文獻學の貢獻渺々しからざる爲めに、眞の美術史そのものゝ研究を以て任ずる者にして尙ほ已むを得ず自家の本務を暫く捨てて、此方面の研究に多大の勞力を裂けるに因ること多きもまた疑ふを得ず。美術史的文獻學の振興は、美術史の意義の正しき理解の如く、我邦斯界の急務たり。一たびこのことを知り、轉して我邦美術史に於ける佛教美術の位置を知り、更にこの美術の研究が、如何に佛教そのものに關する智識を要すること多きかを知り、しかもこの種の文獻にして、學者の參照に手頃なるもの從來殆ど絕無なりしを知らば、吾等の茲に落手せる小野氏の著書が、いかに出でざるべからざる時に出たる、出ざるべからざる著書なりしかは何人と雖多言を俟つて初めては知らじ。吾等は著者の卓見と意義殊に深き事業に對して深大なる敬意を惜まざらんとす。書を見るに、寺院の諸建築、建築内の安置物、佛像、諸尊像の意義及び形式の類別、造像の方法、佛畫繡佛、佛物、法器、僧具等極めて廣き範圍に亘りて、しかも平易を旨として說かれたり。頗る學者の參照に供すべし。必ずしも完備を以て目すべきには非るべきも、そは著者其人が既にその卷首に於いで明かに自ら注意せる處他日の大成も又著者自らの聲明せる處なり。然らば吾等何をか更に貪らん。空谷の跫音にも傳ふべきこの書が日本美術史研究者並びに、後のこの種の文獻學者に對して直接間接に大なる利益を與

ふべきは斷じて疑ふべからざる戚なるを。東京小石川原町六番地
丙午出版社發行。壹圓五十錢。(植田藏)

寄贈書籍雜誌

カントと現代哲學　文學博士　桑木嚴翼著　岩波書店
國語のアクセント　文學士　佐久間鼎著　心理學研究會
三富義臣君今井國三君追悼錄　增田篤夫編　三富今井追悼錄事務所
佛教美術概論　小野玄妙著　丙午出版社
印度の佛教　荻原雲來著　同
哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、人性、六合雜誌、東亞之光、早稻田文學、學校教育、教育、小學研究、教育界、新公論、教育時論、滋賀縣教育會雜誌、長崎縣教育會雜誌、都市教育、信濃教育、佐賀教育、藝備教育、宮城教育、愛媛教育、兒童、

前號目次

最近のライブニッツ研究に就て……文學士　錦田義富
十九世紀後半に於ける倫理學說の發達……文學博士　中島力造
デューイの教育論……文學士　篠原助市
大鹽中齋の學說(完結)……文學博士　高瀨武次郎
彙報——新著紹介……